

災害医療研修を兼ねた病院防災訓練を実施

●医学部附属病院

医学部附属病院は、11月5日(木)、災害医療研修を兼ねた病院防災訓練(第2回地域密着型災害コース)を実施しました。

同院は平成19年度から災害拠点病院に指定され、地域の災害対策網の一員として役割を担うことになりました。この研修は、短時間に非常に多くのマンパワーを必要とする



全体訓練の様子

災害時に対応できる人材を育成するために、昨年から実施しているものです。

今回は、富山大学附属病院、三重大学医学部附属病院、愛知医科大学、富士市立中央病院、静岡済生会総合病院からインストラクターを招へいし、同院から医師、研修医、看護師、コメディカル、事務職員などの受講者38名、大学院生、事務職員の模擬患者役18名の計56名が参加しました。

まず、中央診療棟3階講堂において、松尾医学部附属病院長のあいさつの後、インストラクターから災害医学総論、災害医学各論等の講義が行われました。その後、5つのグループに分かれ、指揮命令系統の確立、一次トリアージ、外傷治療、搬送、情報・通信の5つのスキルブースを順次廻り、実習が行われました。

最後にグループ実習の成果を活かし、災害を想定した全体訓練が病棟南側のスペースで行われました。

昨年と同様、多くの参加者から、実践的で大変有意義であったという声が聞かれました。

南京大学 気候・地球変化研究院と連携を合意

●グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」

グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」は、10月20日(火)、地球生命圏研究機構等を基軸に、南京大学の気候・地球変化研究院と実質的な交流・協力関係を推進することを合意し、覚え書きを取り交わしました。

これは、10月20日(火)、21日(水)に、中国 南京で開催



講演する安成教授

された南京大学 気候・地球変化研究院の開設式典と記念フォーラムで取り交わされたもので、本学からは、同プログラムの拠点リーダーである安成哲三地球水循環研究センター教授及びスーパーバイザーである山本進一総長顧問が出席しました。本学は、南京大学と1982年に全学間学術交流協定を結んでおり、これまでも様々な交流・協力活動が行われていますが、グローバル COE プログラムをベースとした連携は初めてとなります。

同研究院は、大気科学、地球科学、地質学、環境学、リモートセンシング、生物学のみならず経済学、社会学など、研究者の専門の枠を超えた全学的な組織で、南京大学の総合大学の利点を生かして中国の社会経済的發展に対する緊急の必要性に答えることを目指して設立されました。このような設立目的は、同プログラムの拠点が形成された目的と、強く合致しており、フォーラムでは安成教授が同プログラムの詳細について、その学術的背景などについて講演を行いました。

また、式典では、多数の来賓の祝辞、銘版の披露とともに、安成教授が、同研究院のアドバイザー・評価国際パネルの委員(副委員長)に就任しました。